

「株式会社アジャイルエネルギー^{エックス}X」について

1. アジャイルエネルギーX 事業概要

変動性の再生可能エネルギー（以下、「再エネ」）などを分散コンピューティングシステムを含む可搬型の分散エネルギーリソース設備^{※1}に利用するというスキームを構築し、再エネ発電量に呼応すべく電力需要を柔軟に創出する。これにより、これまで余剰として発電抑制されていた電力の有効活用を実現する。また、事業採算性の問題で未利用となっている地域の再エネを含むクリーンエネルギー資源を追加的に掘り起こし、電力の地産地消を促進することも目指す。

分散コンピューティングは、離れた地点に分散設置された複数のコンピューターをネットワークでつなぎ、複雑な計算タスクを細切れに実行可能なことから、余剰電力が発生する時間および空間に合わせてコンピューターを稼働させることで、需要を柔軟に創出・抑制可能である。

分散コンピューティングの中でも特に仮想通貨マイニングは、直接の顧客がいないという特異な事業形態であるために、計算の開始・停止を自由に制御可能であることから、需要創出の柔軟性が極めて高い。さらに、大容量の通信回線が不要であることや、空調設備等の付帯設備は簡素なものしか必要としないなど、設置の柔軟性も高い。

一方、世界規模での仮想通貨マイニングの拡大による電力消費と環境負荷の増大を指摘する声もある^{※2}。本スキームは、電力を大量に消費するコンピューターの特性を逆手に取り、再エネ導入の拡大を妨げている課題の解決に利用することで、カーボンニュートラル促進につなげるという、逆転の発想に基づくものである。

具体的なステークホルダー向けソリューション提供イメージは以下のとおり。

【自治体】

脱炭素を推進する自治体が導入する再エネの余剰電力を買い取り、分散コンピューティングに利用。生じたデジタル価値や環境価値などによる利益の一部を自治体に還元。脱炭素のまちづくりや、エネルギー地産地消、地域経済活性化の促進に貢献。

【再エネ事業者】

再エネ事業者から余剰電力を買い取り、分散コンピューティングに利用。再エネ事業者は、余剰電力の買取り先が確保できることで事業採算性が向上し、追加的な再エネ導入も促進される。

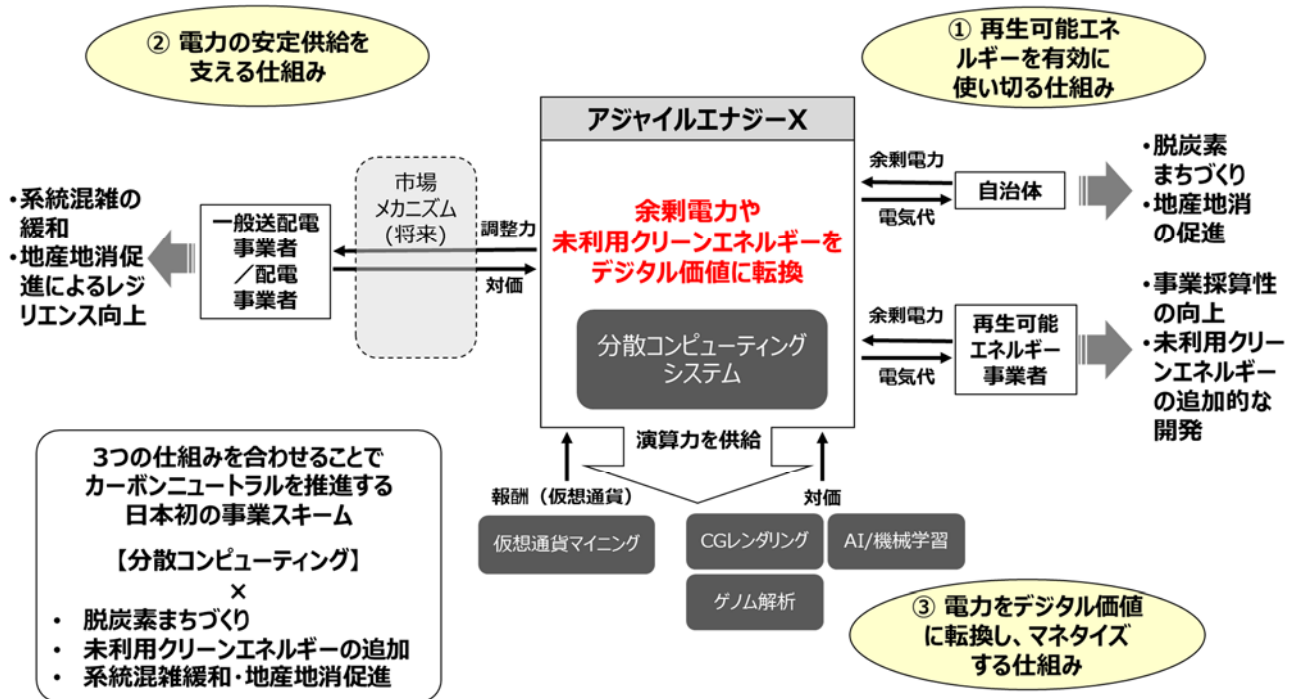
【一般送配電事業者／配電事業者】

系統混雑エリアで分散コンピューティングによる需要を創出し、将来の設立について国で現在議論されている混雑緩和のための市場メカニズムを介して、一般送配電事業者や配電事業者に対し調整力を提供。エネルギー地産地消の促進によるレジリエンス向上にも貢献。

※1 分散エネルギーリソース（Distributed Energy Resource、DER）とは、分散して設置されているエネルギー設備のことで、発電設備、蓄電設備、需要設備の3種類がある。

※2 仮想通貨の一種ビットコインのマイニングによる電力消費量を推定している英国ケンブリッジ大学オルタナティブ・ファイナンス・センター（CCAF）によれば、ビットコインマイニングによる電力消費量は年々増加している（<https://ccaf.io/cbeci/index>）。

＜事業スキーム概略図＞



2. 会社の概要

社名	株式会社アジャイルエナジーX (エックス)
所在地	東京都港区港南二丁目 16 番 5 号
資本金	3 億 5,000 万円 (資本準備金含む)
出資比率	東京電力パワーグリッド株式会社 : 100%
代表者	代表取締役社長 立岩 健二
設立日	2022 年 8 月 26 日
営業開始日	2022 年 10 月 1 日
事業内容	未利用再生可能エネルギーを含むクリーンエネルギー資源の有効活用および電力系統の最適化に資する、電力需給・系統混雑状況に応じて機敏かつ柔軟に設置・運用可能な分散エネルギーリソース設備 (コンテナ型分散コンピューティング装置およびブロックチェーン技術に立脚した仮想通貨マイニング装置など) を用いた、電力のデジタル価値への転換、ならびに関連する先進的なソリューションの企画、調査、研究、開発、制作、運用、保守、販売、コンサルティングなど

以上